



# 杉二だより

令和 5 年度 5 月号  
 杉並区立杉並第二小学校  
 〒166-0016 杉並区成田西 3-4-1  
 TEL 03-3313-0564  
<http://www.suginami-school.ed.jp/sugi2shou/>



## 「わからないこと」に慣れる練習

本校では、校内研究として、「学びの構造転換」をめざし教員が授業改善に取り組んでいます。「学びの構造転換」とは、教師主導の講義型の授業から、児童が自発的に学ぶスタイルにシフトするところから始まります。今までの知識伝達型ではなく、児童が主体的に貪欲に探究し、友達と協働して学びに取り組んでいく姿を目指しています。

さて、ここで古典的な問いです。

勉強をして将来、役に立つことってありますか？この疑問にはたくさんの答えがあると思います。どうでしょう。

勉強って役に立つでしょうか。

海外へ初めて行った時のこと、外国の人と初めて話をしたとき、その言語は英語でした。

聞き取れた言葉が少ししかわからず、あとはその時の状況や相手の表情、ジェスチャーから推測するしかありませんでした。

でも、わからないままだとその地で暮らしていくことができないので、困りました。困りましたから、わかろうと四苦八苦しなながら頑張りました。「じゃあ、今ぺらぺらですか？」と言われるとそうではありません。まだまだ分からないことが多く、勉強中です。ただ、その時、「わからない」体験があったから、「わかろう」と努力する自分がいたことは事実です。

つまり、「わからない」体験を積むから、「わかろう」と学ぶ、それが勉強ではないかと。

タイパ(タイム・パフォーマンス)の時代と言われています。時間当たりの生産量を重視し、手取り早く「正解」を得て、興味のないものを排除していき、動画の倍速視聴、ヒット曲のイントロは短く、それこそ Chat GPT で素早く感想文を書くこともできる…。

先ほどの英語一つの問題にしても、「自動翻訳機」を持ち歩けば、きっと解決できることでしよう。

しかし、子供が本来持っている「これってなんなのかなあ。」とか「どういうふうになっているの。」という素直な疑問符に対して、私たちはすぐに「正解」を与えていいのでしょうか。

「わからない、もやもや」のままにしておく…。

その「もやもや」をクリアにしていくその過程を実体験する場の一つが学校かなと思います。

先日の全校朝会でこの話を児童にしました。

「わからない」ことに慣れましょうと。

勉強というのは、「わからないことに慣れる練習」をしていることですよ。だから、授業中に「先生、わからないよ。」といえるのは勲章です。わからなくて混乱するのも当然です。なぜなら学校はそれを学びにきているからです。

将来社会に出たら、 $1+1=2$ のように単純にわかることよりももっともっと複雑でわからないことだらけになります。その中でひるまず、しなやかに、前向きに生きていかななくてはなりません。

私は今、子供たちは、「わからないこと」に慣れる練習をして、将来の「わからない」に備えている時間ではないかなと考えています。

勉強とは絶えず「わからない」ことに慣れる練習を積み、「わかろう」とする努力を惜しまないものです。

それがこの不確実で曖昧で不安定で複雑な時代を生き抜くために必要だと思いませんか。「学びの構造転換」もそんな社会の情勢からきているものです。

だから将来きっと役に立つ…そう信じています。

何しろ、AI を創造したのも「人」ですから。

### 5月のあいさつ標語

○あいさつで ころころがはれる きょうになる

4年 児童作品

○おはようほ 今日のスイッチ おす言葉

6年 児童作品

### 5月の生活目標

「気持ちのいいあいさつをしよう」

新緑の美しい季節になりました。鳥の囀りをBGMに子供たちの明るい挨拶で一日が始まります。

さて、気持ちのいい挨拶とはどんな挨拶でしょう。笑顔で、明るく、気持ちを伝えるように、など一人一人が考えることで、いつもの挨拶がさらに気持ちよくなります。挨拶をする人も、挨拶をされた人も「しあわせ」な気持ちになるようなすてきな挨拶にしたいですね。